

Ⅲ オセアニア [豪州]

1. 一般経済の概況

99/2000年度（7～6月）の豪州経済は、個人消費や住宅建設の増加などの内需の拡大を背景に、国内総生産（GDP）が6,214億豪ドルに達し、実質GDP成長率が4.4%を記録して、年度当初における連邦政府の予測（2.75%）を大幅に上回るなど、前年度に引き続いて極めて活発な動きを示した。

また、99/2000年度の平均失業率は、好調な経済活動を反映し、前年度より1.0ポイント低下して6.9%と史上最低を記録した。平均失業率は、94/95年度以降、継続的に1ケタ台を維持している。

一方、99/2000年度の貿易収支はマイナス128億豪ドルで、前年度に引き続いて大幅な赤字を記録した。近年の内需拡大に伴う貿易収支の悪化は、経済成長を続ける上で不安材料の1

つともなっている。

なお、日本は、輸出入を合わせた貿易総額で米国を上回り、豪州にとって引き続き最大の貿易相手国となっている。

2. 農・畜産業の概況

豪州の農業（林・水産を除く）は、GDPで全体の約3.0%、就業人口で全体の約4.3%を占めるに過ぎず、産業全体に占める割合は必ずしも高くない。しかし、99/2000年度の全商業輸出額に占める農産物の割合は27.3%と、鉱物資源（44.9%）に次ぐ位置を占めており、農業は、極めて重要な輸出産業となっている。

2000年6月末現在の農家戸数（農業施設評価額22,500豪ドル以上）は、前年より3.0%増加して約8万6千戸になった。このうち、肉牛専業農家は約1万8千戸、羊専業農家は1万2千戸、酪農家は約1万4千戸であり、穀物などの兼業経営を併せると、農家の約8割が何らかの形で畜産経営に携わっていることになる。

豪州では、国土面積の約6割に相当する約4億6,600万ヘクタールが農業用地となっているが、そのうちの約9割は牛や羊の放牧のみに利用可能な自然草地である。酪農家を除く1戸当たりの農地面積が5千ヘクタールを超えていることからわかるように、極めて粗放的な農・畜産業が一般的に営まれている。

表1 主要経済指標

区分/年度	95/96	96/97	97/98	98/99	99/00
実質GDP成長率(%)	4.5	3.8	4.8	5.4	4.4
消費者物価指数 (89/90=100)	118.7	120.3	120.3	121.8	124.7
失業率(%)	8.4	8.6	8.3	7.6	6.9
貿易収支(百万豪ドル)	▲1,787	▲66	▲2,917	▲11,620	▲12,828
対日貿易収支(百万豪ドル)	5,613	5,136	4,920	2,979	4,662

資料：ABS「Australian Economic Indicators Dec. 2000」

表2 経営タイプ別農家戸数の推移

(単位：千戸、ヘクタール)

区分/年	1996	1997	1998	1999	2000	平均農場面積
酪農経営	13.9	13.7	13.6	13.8	14.0	213
肉牛専業経営	20.8	20.2	18.4	17.2	17.7	11,754
羊専業経営	13.4	11.4	12.2	13.3	12.1	7,509
羊/肉牛経営	10.5	9.6	8.4	8.7	8.6	5,670
穀物/家畜複合経営	17.1	16.9	17.5	16.2	18.8	1,469
小麦・他穀物専業経営	9.2	13.7	14.4	13.9	14.4	1,570
合 計	84.9	85.5	84.5	83.1	85.6	5,643

資料：ABARE「Australian Farm Surveys Report 2000」

注1：農場施設評価額22,500豪ドル以上の農家、各年6月末現在

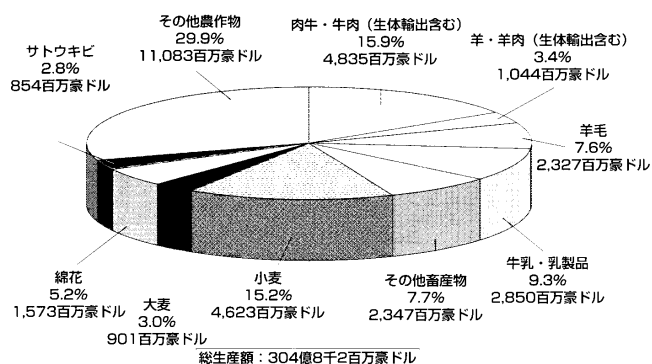
注2：平均農場面積の合計欄は、酪農経営を除く平均値

農業粗生産額は、近年、急激に変動することなく安定的に推移しており、99/2000年度には、前年度比5.6%増の約305億豪ドルとなった。

畜産は、農業の中で極めて重要な地位を占めており、99/2000年度には、その粗生産額が農業全体の約44%を占めた。

99/2000年度の畜産物粗生産額は、前年度比5.8%増の134億ドルに達したが、中でも肉牛・牛肉が約48億豪ドル（8.0%増）、羊毛は約23億豪ドル（8.8%増）と顕著な伸びを示した。

図 1 農業粗生産額（99/2000年度）

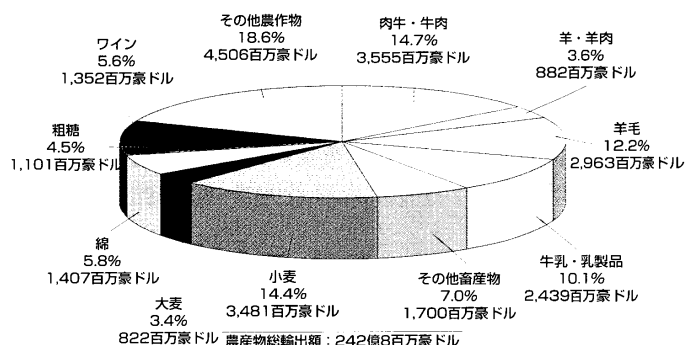


資料：ABARE「Australian Commodities」

99/2000年度の農産物総輸出額（FOB）は、前年度比7.7%増の約242億豪ドルとなった。このうち、畜産物の輸出額は全体の48%を占め、穀物・油糧種子の24%を大きく上回る最大の輸出部門となっている。

99/2000年度の畜産物輸出額は、前年度比10.4%増の115億ドルとなった。その内訳は、肉牛・牛肉が約36億豪ドル（10.6%増）、牛乳・乳製品が約24億豪ドル（8.1%増）と順調な伸びを示し、羊毛も約30億豪ドル（14.7%増）と、前年度の落ち込みから回復した。

図 2 農産物総輸出額（99/2000年度）



資料：ABARE「Australian Commodities」

3. 畜産の動向

(1) 酪農・乳業

豪州の酪農は、放牧を主体とする経営が大部分であるため、ビクトリア州を中心とする、気象条件に恵まれ牧草生育に有利な地域に集中している。

また、生産される生乳の約8割が加工向けであり、さらに、製造される乳製品の約7割が輸出向けという輸出依存型産業である。

従って、生乳生産量は気象条件や牧草の生育状況などによって大きく変動するとともに、酪農経営は乳製品の国際市況の影響を受けやすいという特徴を有している。

① 主要な政策

加工原料乳に対する価格補てん政策（連邦制度）と飲用向け生乳に対する最低価格保証政策（各州の制度）が実施されていたが、2000年7月1日をもって両制度ともに撤廃され、生乳の販売流通が完全に自由化された（コラム参照）。このほか、豪州酪農庁（ADC）などの業界団体が販売促進、研究開発、マーケット情報提供などを行っているが、これらの事業財源の多くは、生産者課徴金（強制徴収）によるものである。